

常総市消防団組織の機構一体化について

小林 剛議員

質問

消防団は常に、緊張感をもって訓練と待機をし、命がけで地域の安全を守っている。その活動を読んだ漢詩を紹介する。「天裂地崩不足駭猛火洪水何遠巡吾等使命在此際任侠一片当挺身勇敢沈着亦機敏發揮消防大精神」（天が裂けようとも地が崩れようとも驚きもせず、大火になろうとも台風大雨がこようとも何でためらうものか。消防はこんなときにこそ勇敢で慌てず、すばやく活動することができるとの。こんなときに役割を發揮しないでいつできるのか。これが消防のモットーであり、即ち、人の心理とするものであり、消防の大精神である。）市消防団も、この消防精神にのっとった活動をし、全国に誇れる消防団である。これらを基に伺う。①団長二名、五名の副団長、これでは命令下達に混乱が生じ、報酬も数倍となる。指揮命令系統の整理が必要であると考えるがいかがか。②水海道支団は分団制、石下支団は部制である。これらは内部亀裂を



生じる基となり、大災害時には、組織が一体となつて取り組まねばならないにもかかわらず、市民の安全・安心を確保することは難しくなる。合併の目的の一つでもある組織のスリム化、経費節減の点からも早急に常識的な組織形態とすることが必要であると考えるが、いかがか。③先の大震災時、加入電話、携帯とも当てにならないことが立証された。ここで、フェイスブックのグループ作成を使って災害時の情報収集に利用してはどうかと考えるが、いかがか。

答弁（市民生活部長）

①団の意向を尊重しながら整理を進めていきたい。②常備消防の一元化とあわせ、一体化に努めていく。③非常時の信頼性を研究し、検討していきたい。

再質問

団、機構の一元化の時期について再度伺う。

再答弁（市民生活部長）

緊急時の支援協定の見直しについて

質問

東日本大震災後、全国的に復興・復旧に取り組み中、防災計画の見直しが行われ、常総市でも防災無線未構築地域への設置、既存施設の整備改良・改善が進められているところである。しかしながら、医療機関との支援協定の見直し、他市町村との相互応援協定の見直しについては議論されなかつた経緯がある。これらを踏まえ質問する。①常総市は、大規模災害時における緊急時の支援協定をきぬ医師会病院と結んでいるが、大災害を想定した場合、対応能力に不足は生じないか。また、協定の内容を伺う。②大規模災害

早期に進めなければと認識している。

再々質問

組織機構の一体化については、団長の任命権者でもある市長に、円満解決を強く要望する。

（その他の質問）

○地域防災組織の普及率向上について。

倉持 守議員

時における相互応援協定は、阪神・淡路大震災を教訓に、全国レベルの県単位による整備がなされたが、市レベルでは県内の市町村との連携のみとなっている。近い将来、関東直下型の大震災が想定されるなか、関東地区・関西地区・九州地区・北海道などと区分けをし、想定が関東直下であるため、別の地区の自治体との提携を検討する必要があると考えるが、執行部の見解を伺う。

再質問

○市政運営に対する市長の考え（施策等）について

①当市は、鬼怒川を挟んで二つに分かれているが、大震災時には橋の損壊等も想定し、西側にある西部病院との提携も必要であると考え、その実行について要望する。②広域の他市町村との相互応援協定も検討中とのことであり、他の県との相互応援協定締結実現も強く要望する。

答弁（市民生活部長）

①提携内容については、被災者の症状の判別、傷病者に対する応急救護の実施、医療機関への転送の要否判断や死亡の確認となつてい

